

# 彫金 饗饗文花瓶

とう てつ もん か びん  
指定 平成20年 三原市所蔵

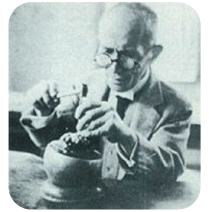
守り・伝える・文化財 ②



▲彫金 饗饗文花瓶  
(高さ30.4cm 口径11.2cm)

彫金 饗饗文花瓶は、郷土出身の彫金家 清水南山本名・亀蔵の作品です。南山は明治8年(1875年)に現在の幸崎町能地に生まれ、東京美術学校(現東京芸術大学)彫金本科を首席で卒業し、後に母校の彫金科教授に招かれました。帝展審査員、帝室技芸員、日本彫金会会長などを歴任。日本工芸界のリーダーとして活躍しました。疎開のため幸崎に帰郷しましたが、日展審査のため上京中に病に伏し、昭和23年(1948年)に東京練馬の自宅で逝去しました。

饗饗文とは、2匹の龍が向かい合った形で表された文様で、中国殷代の青銅器や建築に用いられ、内部を邪霊から守ると信じられていました。真鍮製の内筒は、船の舳先に似た蓮弁文様の内側に四角な渦巻模様の雷文がデザインされています。銀色の線はつなぎ目が分からないほど



▲制作中の清水南山

追及しようと努力を重ねた求道精神を、作品を通して感じてください。いと語り

巧みな銀象嵌がはめ込まれ、黄金色に輝く部分は金鍍金が施されています。上下の両端が広がった内筒に、饗饗文を彫金した継目のない銅製の外筒を寸分の隙間もなくかぶせてあり、不思議に思うほど精緻な技法が駆使されています。この作品は昭和5年(1930年)第11回帝展に出品されました。東洋の文様に西洋のオールデコ様式が大胆に取り入れられた、南山の最盛期の代表作のひとつです。

今月13日(木)から12月7日(日)まで、リージョンプラザ展示ホールで開催する秋の企画展「没後60年 清水南山と近代彫金の巨匠たち」に出席・公開します。市文化財保護審議会委員の丸山精さんは「南山の至高の彫金技術を支えているのは強い克己心です。日本の伝統文化のすばらしさを若い人たちに伝えながら、自らも

あなたの手作り年賀状を募集

あなたの年賀状を広報に載せてみませんか。題材は自由です。力作を待っています。掲載・審査 来年1月号表紙に掲載します。紙面に限りがあるため、応募多数の場合は選考します。

※一人1作品、手作りのものに限りです。

※営利目的・写真入り・パソコンで制作のもの・その他掲載することが不相当と認められるものは掲載できません。

※掲載・未掲載の問い合わせと、応募作品の返却はできません。

※年賀状作品に、名前などの個人情報記入しないでください。

応募方法 12月12日(金)当日必着までに、はがき(年賀はがきを除く)の裏面に年賀状作品、表面に住所、名前、年齢を記入し、秘書広報課(〒723-8601 港町三丁目5番1号) ☎0848⑦6007へ

追及しようと努力を重ねた求道精神を、作品を通して感じてください。いと語り

問い合わせ先  
生涯学習課(☎0848④2137)

## 税の納期(普通徴収)

- ◎国民健康保険税(第5期)
- ◎介護保険料(第5期)
- ◎後期高齢者医療保険料(第5期)
- 納期限 12月1日(月)
- ※税金・保険料は納期限までに納めましょう。

今月の夜間収納窓口(19時まで)  
13日(木)・27日(木)

● 三原市の人口 ●	
(9月30日現在)	
世帯数	43,997世帯 (+263)
人口	104,299人 (-554)
男	50,094人 (-250)
女	54,205人 (-304)
( )内は前年同月との比較	



あ・と・が・き  
榎小学校の授業を取材したときのこと。場所は学校の近くにある乗馬クラブ。1・2年生の生活科の授業の一環で、馬とのふれあいを通して命の大切さを学んでもらおうというものです。乗馬クラブのスタッフの手を借りて、子どもたちが馬にまがると、目の高さは地上から約2メートル。後から感想を尋ねると「遠くの景色まで見えて、気持ちよかった」「馬の体は温かかった」「最初は怖かったけど、楽しかった」と笑顔いっぱい答えてくれました。榎小学校の子どもたちは、こうして馬に親しみ、乗馬クラブのそばを通って登下校を繰り返すうちに、遠くからでも馬の顔と名前を自然に覚えてしまおうそうです。取材した私たちも、馬と子どもたちとのふれあいに心いやされ、ほのぼのとした一日になりました。今度は取材ではなく、乗馬初体験といたしたいものです!(ま)